NEWS RELEASE

感動のそばに、いつも。JTB

JTB 広報室　2026 年 11 月 25 日

JTB、子どもの急病時の仕事と育児の両立を支える実証実験を開始

～シッターによる即日のお迎え・自宅ケアとオンライン診療をつなぐ～

株式会社 JTB（以下「JTB」）は、株式会社 MedNext Japan およびル・アンジェ株式会社と連携し、子どもの急な体調不良時のお迎え・受診・看病を支援するサービスの実証実験を、2026年12月15日から東京都内の対象地域で開始します。本実証実験では、保育園等から連絡を受けた保護者の依頼に基づき、シッターが子どもを迎えに行き、自宅まで送迎します。その後、自宅にいる子ども・シッター、勤務先等にいる保護者、医師をオンラインでつなぎ、子どもが自宅で診療を受けられるようにします。これにより、保護者は子どもと離れた場所にいても診療に参加できます。診療後は医師の診療内容に基づき、シッターが自宅でケアを行います。まずは JTB 社員とその子どもを対象に、サービスの有用性や運用上の課題を検証します。なお、本実証実験は、東京都の「TIB CATAPULT」で展開される「Global CityTech Bridge」の 2026 年度採択プロジェクトです。

■ 子どもの急な体調不良時に保護者が抱える負担

0～6 歳の未就学児がいるフルタイム勤務者 600 人を対象とした JTB の自主調査（※1）では、直近 1 年以内に保育園等からの呼び出しを経験した人は 82.7%、子どもの病気により早退・欠勤など勤務への影響を経験した人は 87.2%でした。

子どもの急な体調不良時には、子どもへの心配だけでなく、お迎え・受診・看病の手配と仕事の調整を同時に行う必要があります。お迎えや看病をシッターに任せようとしても、事業者によって病児への対応可否や予約申し込みの締切りタイミングが異なり、発症当日に依頼できるとは限りません。また、事前の受診が病児対応シッターの利用条件となっている場合は、保護者が先にお迎えと受診を済ませる必要があり、仕事を調整する負担が残ります。こうした状況から、子どもに必要なケアを確保しながら、保護者が発症当日に頼れる支援の選択肢を広げることが求められています。

※1 調査主体：株式会社 JTB／調査期間：2026 年 6 月 24 日～25 日／調査方法：オンラインアンケート調査／本調査回答数：600 人／対象：保育園・幼稚園等に通う 0～6 歳の未就学児がいる就業中の保護者かつ子どもの体調不良時に主に本人が対応するか、配偶者・パートナーと分担する人／集計：全 600 人を分母とし、各設問で直近 1 年間に 1 回以上の経験があったと回答した人の割合。

■ 離れた保護者も診療に参加できる三者間オンライン診療

以上の負担を減らすため、本実証実験では、シッターが発症当日に保育園等へ子どもを迎えに行き、自宅でケアを行います。お迎え後の受診とケアをあらかじめ組み合わせて手配することで、保護者が事前にお迎えや受診を済ませることなく、シッターに子どものケアを引き継げる仕組みとします。

受診には、本サービスのために企画・開発した「三者間オンライン診療プラットフォーム」を活用します。このプラットフォームは、子どもとシッターがいる自宅、勤務先など保護者のいる場所、医療機関の 3 拠点を同時につなぎます。保護者は子どもと離れた場所にいても診療に参加でき、医師に症状や既往歴を伝え、シッターとともに診療内容を確認できます。

1 発症の連絡	2 シッターの依頼	3 当日のお迎え	4 診療と自宅ケア
保育園等が 保護者に連絡	保護者が当日の シッターを依頼	シッターが迎えに行き 子どもの自宅へ	シッターと子ども・保護者・医師をオンライン診療で接続 診療後は自宅でケア

■ 企業や保育園を通じて子育て家庭を支えるサービスへ

JTB は、こうした支援を社外の子育て家庭にも届けられるよう、企業の福利厚生サービスとしての提供や保育園への導入、保護者との個人契約による利用を想定しています。子どもの状態や家庭の事情に応じた新たな選択肢を提供することにより、保護者の不安や仕事との両立に伴う負担を和らげることを目指します。

保育園では、保護者が迎えに来るまでの間、職員が体調不良の子どもに対応する必要があります。将来的には、三者間オンライン診療プラットフォームを保育園でも活用し、診療からシッターによるお迎え、自宅でのケアまでをつなぐことで、保護者だけでなく保育園の負担軽減にもつながるサービスへの展開を検討します。

■ 各社の役割

子どもの急な体調不良時に当日から支援を提供するには、シッターの手配、自宅でのケア、医療機関への接続を、関係する事業者の間で調整する必要があります。JTB は、旅行や法人向けサービスで培った事業者との連携、手配・運営の経験を生かし、本サービスの企画・統括を担います。連携各社の役割と対応の手順を設計し、シッターサービスとオンライン診療を一連の流れで利用できる運用を整えます。

企業	主な役割
株式会社 JTB	実証全体の企画・統括、サービス設計、実証運営と効果の検証
株式会社 MedNext Japan	オンライン診療のプラットフォームを開発・提供し、医療機関との接続を支援
ル・アンジェ株式会社	シッターの管理・手配、子どものお迎えと自宅での病児ケア

■ TIB CATAPULT「Global CityTech Bridge」について

本実証実験は、東京都の「グローバルイノベーションに挑戦するクラスター創成事業」（通称「TIB CATAPULT」）において実施される「Global CityTech Bridge」の 2026 年度採択プロジェクトとして実施するものです。

東京都では、都が運営するイノベーション拠点「Tokyo Innovation Base」（TIB）を起点に、成長可能性が高い技術や産業の分野を集中的に支援するため、令和 6 年度から「グローバルイノベーションに挑戦するクラスター創成事業（通称「TIB CATAPULT」）」を実施しています。この事業は、大企業や投資家など複数の事業者による共同体「イノベーションクラスター」が、それぞれの強みを生かして、グローバルなスタートアップを育てていくことを支援するものです。

「Global CityTech Bridge」は、CityTech（大都市関連テクノロジー）のイノベーション創出と社会実装を目指すものです。運営は CIC Catalyst と清水建設株式会社が共同で担い、社会実装パートナーとともに、スタートアップに対して、大企業とのマッチング、実証機会の提供、社会実装に対する経済的支援、海外市場展開支援、PR 機会の提供などを行います。今後、スマートシティ、モビリティ、エネルギー、脱炭素、資源循環、防災・レジリエンス等に関するソリューションを、課題先進都市である東京で実証・社会実装し、東京での実装例をもって海外展開を目指します。

JTB は、採択スタートアップの株式会社 MedNext Japan と連携する社会実装パートナーとして、実証を行い、サービスの実用性を検証します。

JTB は本実証実験を通じて、子育て中の従業員が仕事と育児を両立できる環境づくりに貢献するとともに、JTB グループ長期ビジョン「OPEN FRONTIER 2035」が掲げる、サステナブルで心豊かな社会の実現を目指します。

【本実証参画企業概要】

■株式会社 JTB
所在地：〒105-7131 東京都港区東新橋一丁目 5 番 2 号 汐留シティセンター
代表者：代表取締役 社長執行役員 青海 友
事業内容：旅行事業、地域交流事業、法人ソリューション事業など
公式サイト：https://www.jtbcorp.jp/

■株式会社 MedNext Japan
所在地：〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5 階
代表者：代表取締役社長 李珠伊
事業内容：遠隔医療プラットフォーム運営
URL：https://mednext.io/

■ル・アンジェ株式会社
所在地：〒150-0044 東京都渋谷区円山町 23-2 アレトゥーサ渋谷 7F
代表者：代表取締役社長 野坂幸司
事業内容：ベビーシッターサービス、保育園運営、その他子育て支援事業
URL：https://www.leange.co.jp/

■一般のお客様からのお問合せ先
JTB イノベーション戦略推進チーム jtb_ist@jtb.com
■報道関係の方からのお問合せ先
JTB 広報室代表メールアドレス jtb0074_all@jtb.com